

<別紙> 情報提供様式

①事例名	
学校経営骨太モデル事業	
②学校名	
県立高島高等学校	連絡先 0740-22-2002
③取組分野(複数選択可)	
☒ 副校長・教頭の負担軽減に関する取組（学校経営骨太モデル事業、副校長・教頭マネジメント支援員の活用等）	
④直面していた課題(取組前の様子)	
教頭業務は、事務処理、会議・協議への参加、突発的な事象への対応などの業務量が多く、教頭の在校等時間は顕著に多く、本来担ってもらいたい教員の人材育成や教員への支援について多くの時間を割くことが難しい状況であった。 また、周囲の教員に一部の業務を依頼することもできずに、教頭が一人で仕事を抱えてしまう傾向にあり、時間的にも精神的にも余裕を持って業務を遂行することが難しい状況であった。	
⑤在校等時間の縮減に向けた具体的取組内容	⑥参考となる写真や資料を添付
県の事業(学校経営骨太モデル事業)により、教頭業務の一部を担う教員に授業時間の軽減をすることで、教頭の業務量を減らす。 ・メール確認、メールの振り分けを指定した教員が対応 ・ベテラン教員が振り分けを行うことで、的確な振り分けが可能であった。 ・本校の正教員が担うため、ファイルやデータの共有が円滑に行われ、過去の経緯も共通理解したうえで相談ができるため、短時間で的確な業務遂行が可能となった。 ・教頭が教員に業務の一部を依頼しやすくなった。また、教頭が相談しやすくなったり、教員の教頭業務の理解も進んだ。 ・復命の簡素化 教員にとっては、時間短縮。教頭にとっては、教員の復命が円滑に提出されるようになったことで、未提出者の催促などが大幅に減った。 ・最低限必要な送付状以外はつけない 起案の時間の短縮、決裁時間の短縮 <u>取組のポイント</u> ・学校の状況をよく理解した教員に支援してもらうため、依頼する業務についての説明がしやすい。また、時間が決められた会計年度任用職員でないため、勤務日の影響も少なく、長期休業中も含めて依頼する時間の制約が少ない。 ・教頭先生のウィークポイント(例えば、ICTが苦手とか)を補う教員が対応することで、業務時間の縮減につながる。	
⑦取組の成果	
・教頭の在校等時間が縮減された。 ・教頭の本来業務の一つである教員の育成や教員への支援に対する時間が増加した。 ・教頭にとって「相談できる」、「業務の一部を依頼できる」教員が身近にいることは、教頭先生の時間的な負担軽減のみならず、精神的な負担も緩和された。 <u>成果のポイント</u> ・教頭先生が、生き生きと「やりがい」をもって笑顔で業務に向かってもらうことを目的として取り組むことが大切。 ・教頭先生の時間的、精神的なゆとりが教員の安心感につながる。	